

入学式式辞

皆さん、入学おめでとうございます。今年はちょうど桜の咲く時期に重なり、皆さんの気持ちも一段と華やいでいることと思います。姫路日ノ本短期大学は、第41期生として入学された新入生の皆さんを心から歓迎します。ご承知かと思いますが、姫路日ノ本短期大学が所属するこの日ノ本学園は、短期大学の他に日ノ本学園高校、短大付属幼稚園からなっており、今から121年前の1893年にアメリカから来た宣教師のエラ・チャーチさんが開講した女学校が発端になっています。この女学校は、姫路地区では最初の女学校でした。それ以来多くの卒業生がこの学園から巣立って行っており、皆さんの周囲にも多くの日ノ本関係者がいることと思います。建学の精神は、新訳聖書ペテロの第一の手紙から取った「心の飾りを」。すなわち、「髪を編み、金の飾りをつけ、服装を整えるような外面の飾りではなく、かくれた内なる人、柔和でしとやかな霊という朽ちることのない飾りを身につけるべきである」であります。

さて、皆さんにはこの姫路日ノ本短期大学で、3つのことを学んでいってほしいと思っています。まず第一に人間として自立していくための教養を身につけることです。いわば大学生として、卒業後、社会人として自立できるための素養を学ぶことです。第二に、職業人として巣立っていくために必要な技能・知識を身につけることです。特に本学は、幼児教育科ですから、幼稚園、保育園の先生になろうとする方が多いと思いますが、そのために必要な資格・キャリアをしっかりと身につけることです。皆さんは、卒業の暁には、そのためのプロになるわけですから、それに相応しい実力をつけていってください。プロとは、信頼に耐える人という意味です。第三に本学はキリスト教主義の短期大学ですから、それに相応しい徳性の涵養、知性の訓練、人間的教養の形成を心がけてください。第二次世界大戦の終わったときに日ノ本学園の校長をされていた浪岡校長は、あなた方一人一人が日ノ本から社会への手紙だと述べられています。

皆さんが、この姫路日ノ本短期大学を母校として、青春の最も大切な時期を共に過ごす場所として選んでいただいたことにまず感謝いたします。そして新しい未来を建設する仲間として共に頑張っていきましょう。これをもって私の式辞といたします。